

様式 4

平成 2 4 年度 第 3 回 学校関係者評価報告書

鳥取県立倉吉東高等学校  
 学校長 牧 尚志

評 価 日	平成 2 5 年 3 月 1 5 日 (金)	
評 価 ・ 提 言	学校の見所・改善策等	
<p>○学校自己評価表は公開されているが、自己評価表のみに限られている。この学校関係者評価委員会で提示されるような資料も合わせて公開・閲覧できるようにするとよいのではないか。</p> <p>○自己評価表の記載について。「検討した」でとどまるのではなく、その「検討した結果（どうなったのか）」を明示すべきである。</p> <p>○評価が全体的に厳しいように感じられる。「A 評価」とは一体どのレベルなのか。A 評価になるには何をどうしなければならないのか。説明を聞く限り A 評価でよいと思うものがいくつかある。</p> <p>○「協同的な学び」の取組について、学校全体から教員集団の熱意というものを感じる。方法論にも深まりを感じるし、何より学校全体として授業指導法の改善に取り組むこと自体に敬意を表したい。また、授業参観時の生徒の姿も優れており、今後の成果に期待する。なお、「グループ学習」にこだわりすぎないことが大切だと思われる。</p> <p>○学校公式HPは、受け手が能動的にアクセスしない限り開けないので、ターゲットとなる受け手に「アクセスしたい」と思わせるような仕掛けを検討すべきではないか。「見て、得するHP」や受け手に情報を直接送り出せるようなシステムを工夫、検討する余地はある。</p> <p>○定時制の卒業生を採用したが、良い人物である。定時制の教育の良さを感じる。</p>	<p>○学校公式HPには関連資料はすでに公表しているが、一覧表にも具体的数値を入れるなどクフしたい。</p> <p>○検討した内容とその達成状況を記述するようにする。</p> <p>○学校長の立場としては「A」に値するものはいくつかあるが、校内評価委員会では、厳しめの評価となっている。「A」評価することが「自画自賛」のような気がするようである。教職員としてはまだ課題が残っているという意味の評価であるが、指摘通り、客観的に達成度を評価できるようにしたい。</p> <p>○来年度は、今年度の反省を生かしてさらに取組を進める。</p> <p>○学校HPとしては、県内でも断トツのアクセス数であるが、さらに情報発信を進めるために検討したい。</p> <p>○評価いただき感謝する。定時制教育も様々な方面からの意見をいただき今後一層の改善に努める。</p>	

○進学に関することが気になる。専攻科が閉科となり、「倉吉鴨水館」が設立されたが、学校から保護者に対して宣伝、情報提供できないものか。鴨水館には実績もなく、不安を持っている保護者が多い。また、他校への鴨水館情報はどうなっているか？

○チューター制は非常に良い制度だと思う。また、専攻科の生徒が現役生を指導するという取組も、鴨水館となっても続けてほしい。

○新しいことに挑戦して失敗すると責任を負わねばならないから、「変化」を受け入れない傾向が強いと感じている。管理職が責任をとると明言し、自由な発想でやらせることが必要ではないか。また、年功序列等縦方向を意識した組織の中で、やる気のある人物が力を発揮できるよう横方向の組織を志向することも大切だと思う。周囲が「できる」と認めた（ミドル）リーダーが組織を引っ張るのが理想的である。

○安養高校のホームステイを受け入れ、楽しいひと時を過ごした。良い生徒たちであり、家族にとっても意味のあるものになった。受け入れ家庭の募集に苦労しているということだが、是非宣伝に使ってほしい。

○来年度の教室等耐震改修、実施された体罰アンケート結果についての情報を提供してほしい。

○「倉吉鴨水館」については、学校側の関与は基本的に認められておらず、広報は鴨水館側の範疇である。学校側としても情報提供等積極的に行いたいと考えているが、認可された経緯を踏まえて、きちんとした線引きを行うことが必要だとの認識に立っている。ここでの要望は鴨水館（同窓会）側に伝えておく。また、実際の運用場面でも、その線引きを守りながら可能な範囲で「専攻科」の「DNA」を保存したい。

○今年度は、学級減と専攻科閉科を踏まえ分掌再編を実施したが、変化を受け入れられず、従前の構造へ後退しようとする場面がいくつも見られた。本来の趣旨・基本的な考え方を繰り返し提示することで前進したいと考えている。

○広報の資源として利用させていただく。

○7月学園祭後、グラウンドに仮設教室を建て移動する。耐震改修に伴い、現行の教務室と進路指導室を中心に改装を行う予定である。また、4、5月に現在建設中のプール（25m）が完成予定である。

○3年生はすでに自由登校となっていたため、1、2年のみに実施したが、体罰事案はなかった。また、すでにその旨報告を終えている。